

楽農を目指して！



千葉県南房総市：池田 美香

1. 経営の経過

- | | |
|-------|--|
| 明治19年 | 初代が乳牛の育成を開始 |
| 昭和49年 | 祖父から父に経営が移譲され、24頭の繋ぎ牛舎を建設 |
| 昭和54年 | 育成牛舎を建設 |
| 平成元年 | 育成牛舎をフリーストール牛舎に改築
アブレストパーラー、40頭搾乳 |
| 平成14年 | 酪農学園大学卒業、就農 |
| 平成15年 | 家族経営協定を締結 |
| 平成17年 | 第17回全国農業青年交換大会
農業青年提言の部 農林水産省経営局長賞 |
| 平成18年 | 酪農教育ファームに加入 |
| 平成21年 | 第58回千葉県乳牛共進会 農林水産大臣賞 |
| 平成22年 | 第2回関東生乳品質改善共励会 最優秀賞 |
| 平成23年 | 平成22年度農村漁村男女共同参画優良活動表彰
次世代を担う地域リーダー部門 農林水産大臣政務官賞
父より経営を移譲され、5代目となる |

2. 地域の概況

私の住む南房総市は人口約4万人で、千葉県房総半島の南端に位置しています。北側は県内最高峰の愛宕山をはじめとする標高300m級の山々が連なり、西は東京湾、東と南は太平洋と三方を海に囲まれています。沖合を流れる黒潮の影響を受け気候は温暖で、野菜、ビワやみかんなどの果実、花卉などの園芸が盛んです。漁業も盛んで、捕鯨の町としても知られています。

また、南房総市は酪農発祥地としても知られ、1728年に徳川八代将軍吉宗がインドから白牛を3頭導入し、白牛酪を作ったのが日本の近代酪農の始まりと言われています。明治時代には乳牛の導入や改良が積極的に行なわれ、乳製品製造や東京への生乳輸送もいち早く行なわれていました。私の牧場の初代も、この頃この地で酪農を始めました。



3. 経営スタイル

1) 健康な牛づくり

牛を健康に育てることが良質な牛乳を生産するために一番に大切なことだと考えています。そのため、経営規模は家族経営でも十分に目が行き届くよう搾乳牛40頭規模を基本としています。健康で長命連産が可能な牛づくりのため、育種改良や牛群検定データなどを活用した個体能力の向上に力を入れ、育成も自家育成をしています。この経営規模は糞尿処理の面でも環境への負荷が少なく、環境に優しい循環型酪農経営が出来ていると考えています。また、牛にとっても人にとっても快適である環境づくりにも取り組んでいます。

家族構成と就業状況

	年齢	農業従事者
私(経営主)	31歳	◎(全般)
父	63歳	○(全般)
母	54歳	△(経理のみ)

2) 酪農体験



酪農家の仕事は毎日の搾乳と牛の世話だけではなく、牛乳の価値、命の尊さ、酪農の魅力などを一人でも多くの人に理解してもらうための活動も重要だと考えています。そのため、以前から近隣の小・中学生の課外授業や高校・大学生の実習を積極的に受け入れており、平成18年に酪農教育ファームにも加入し、より一層活動に力を入れています。

4. 経営面で努力していること

1) 育種の改良

牛の高い能力を確保しながら体型の改良に取り組んでいます。改良のポイントを乳器と肢蹄において、主に国内上位牛の精液や輸入精液を利用しています。更に牛群検定成績や牛群審査体格得点でその成果を定期的に確認しています。

父の代より、全日本ホルスタイン共進会に千葉県代表として連続6回、合計8頭を出品しています。私も積極的に共進会に出品し、平成21年には第58回千葉県乳牛共進会において農林水産大臣賞を受賞しました。また乳質面では、平成22年度の第2回関東生乳品質改善共励会において最優秀賞を受賞しました。



2) コントラクター事業 (NFC : Natural Feed Community)

労働力不足の解消、遊休農地の再利用、飼料価格高騰への対応、TMR飼料の利用増加などから、飼料畑を集積し、堆肥を有効利用して作業を協業化することが必要と考え、2年前に近隣17戸の酪農家と共同でコントラクター事業を始めました。

毎年、会員から年会費として10,000円を徴収していますが、主に出来上がったサイレージをTMRセンターに販売し、その収益で事業を展開しています。播種や収穫の労働力が確保でき、飼料畑を保有していない酪農家も参加できるようにしたことで、地域への貢献になっていると考えています。私の牧場からはトラクター2台とハーベスタ1台を貸し出しており、今後は補助事業等を利用して新たに機械を導入して、事業を安定化させていきたいと考えています。



3) ET事業（南房総市ETプロジェクト）

地域で同じ血統を共有し体型、骨格ならびに泌乳量などを高めていくことが地域の酪農の発展に繋がると考え、4年前に市内の10戸の酪農家でET事業を立ち上げました。

受胎率は70%以上を誇っており、産まれたメスはすべてETプロジェクトでバージンフラッシュをして、メンバーで受精卵を共有しています。毎年20個の受精卵を利用し、これまでに11頭のメスが生まれています。産まれたオスの中には、今年の秋から種雄牛候補として十勝人工授精所で検定が行なわれるものもいます。

5. 経営上で大変だったことと解決するための対策



以前は平均産次3.6産程度で、育成牛を15頭程度保有していれば安定して牛を更新することができました。しかし平成19年ころ、分娩事故が重なって牛の更新が困難になり、淘汰対象牛にもう一度分娩をさせざるを得ない状況となりました。このとき繁殖サイクルが乱れただけでなく、乳房炎、起立不能、乾乳牛の疾病などが多発し悩まされ、育成期や乾乳期の管理の重要性を痛感しました。

当時の苦い経験から、突発的な事故があっても安定的に牛を更新できるよう、育成牛頭数は余裕を持たせ20頭程度確保することとしました。育成期の管理では、粗飼料主体で喰い込める腹づくりと、13ヶ月で初回種付ができるように体高の成長スピードを意識するようにしました。育成期間の短縮は経営面で効果があると考えています。初回種付時期の目安は体高130cmで、成長が早い牛では11ヶ月で種付をする牛もいます。乾乳期の管理では、それまでは分娩直前まで粗飼料のみの管理をしていましたが、粗飼料を飽食させながらも分娩1ヶ月前から配合を1kg、20日前から3kg給与するようにしました。また牛床の清掃を徹底して行い、乾乳期中も毎日ディッピングをすることにしました。

これらの取り組みにより、最近やっと当時の影響から抜け出し経営が安定してきました。

6. 飼養管理で心掛けていること

1) ベッドの環境改善

平成19年に乳質成績が悪化してからは、ベッドを常に清潔に保つよう心がけています。常にベッドが汚れていないか確認して、汚れがある場合はすぐに掃除をしたり、敷料を追加・交換しています。敷料も大腸菌対策として、オガコから海砂に切替えました。敷料に海砂を採用したことは、分娩前後の事故や周産期病の低減に一役買っていると感じています。



2) カウコンフォート



昨今、酷暑の影響を少しでも緩和させるために扇風機を14台に増やし、インバーターや細霧装置も取り付けて暑熱の対策を強化しました。扇風機の設置場所も再検討し、搾乳後にホースで牛の前駆に直接水をかけて、舎内温度と牛の体感温度を効率よく下げるよう努めています。

また、牛舎に設置した電動ブラシは、牛のストレス解消に効果を発揮しています。

3) ディッピング

搾乳前のプレディッピングに酸性水を利用しています。安心・安全な牛乳を消費者の皆様へお届けすることを一番に考え、酸性水を採用しています。パーラーの構造を活かし、酸性水で乳頭を洗浄するような方法で乳頭の清潔度を保っています。酸性水の効果については地域の家畜保健所の協力を得て、その効果を確認しています。

また乳房炎対策の一つとして、乾乳期中も毎日朝晩ヨード剤でディッピングをしています。これにより産前産後の乳房炎の発生を低減させることが出来ており、乳房炎による経営ロスを減らすことができます。



7. 就農して、または酪農経営をして良かったこと

仕事が生活の一環となることで、家族間のコミュニケーションが増えました。仕事場を子供の教育の場とすることで、仕事を通じて子どもの成長を見届けることも出来ます。また、家族のそれぞれが自分の時間を創出できるのも酪農の魅力の一つです。経営基盤を安定させたことで、消費者や同世代の農業後継者との交流にも注力できるようになりました。全国の農業に携わっている多くの方々と知り合え、同じ第一次産業で働く女性との交流を深められたことで、仕事だけでなく、生活面や育児などのプライベートな会話を楽しんでいます。また、このような心強い仲間が存在が良い刺激となり、私のモチベーションにもなっています。



8. 他の酪農家にこれだけは負けないと自信を持っていること

私の牧場では「健康な牛を育てることが良質な牛乳生産に繋がる」を経営方針にし、健康で長命連産が可能な乳牛づくりのための改良を重ねてきました。「これでもいい」ではなく「これがいい！こうなりたい！」と常に高い目標を持ち、牛群検定データを活用した個体能力の向上への飽くなき挑戦、安心・安全な牛乳を消費者の皆様へお届けするという思いから、家族や周囲の方々からアドバイスをもらい支えて戴いたからこそ、結果として、牛の体型と牛乳の品質それぞれにおいて県内トップの成績を修めることができています。

9. 経営の推移

項目		年度	平成20年	平成21年	平成22年
		規 模	飼 養 頭 数	経産牛(頭)	45
未經産牛(頭)	12			7	9
育成牛(頭)	6			4	8
子牛(頭)	6			4	4
合 計	69		58	63	
	労働力(人)	2	2	2	
乳 量	総乳量<哺乳・自家消費用含む>(kg)	376,941	398,382	427,947	
	経産牛1頭当り乳量(kg)	8,376	9,265	10,189	
乳 質	乳脂率(%)	3.86	3.88	3.90	
	無脂乳固形分率(%)	8.86	8.91	8.86	
	体細胞数(万個/ml)	16.3	12.1	11.6	
	細菌数(万個/ml)	1.0	1.0	1.0	
状繁 況殖	平均種付回数(回)	3.2	3.1	3.0	
	分娩間隔(ヶ月)	14.2	14.0	13.9	
経 営 分 析	総乳代(円)	—	—	41,234,631	
	子牛・育成牛・肥育牛販売代金(円)	—	—	2,310,412	
	乳飼比(%)	—	—	50.45	
	総農業所得(円)	—	—	6,511,852	
	所得率(%)	—	—	15.0	
	生乳1kg当り生産費(円)	—	—	82.49	

10. 経営の成果（当期費用と生産原価）

（単位：円）

科 目		金 額	経産牛1頭当 金 額	生乳1kg当 金 額	摘 要
購入飼料費		20,802,901	495,307	48.61	
自給飼料費		474,991	11,309	1.11	
敷料費		100,000	2,381	0.23	
労働費	雇 用	701,755	16,708	1.64	
	家 族	5,400,000	128,571	12.62	1
	計	6,101,755	145,280	14.26	
素牛購入費		1,863,804	44,376	4.36	
診療衛生費		685,234	16,315	1.60	
水道光熱費		594,557	14,156	1.39	
動力費		545,358	12,985	1.27	
種付料		944,639	22,491	2.21	
償却費	乳 牛	3,681,760	87,661	8.60	
	建物・構築物	702,229	16,720	1.64	
	機械車両	1,061,972	25,285	2.48	
	計	5,445,961	129,666	12.73	
修繕費		1,175,271	27,983	2.75	
小農具費		234,013	5,572	0.55	
消耗資材費		611,657	14,563	1.43	
賃料料金		1,726,605	41,110	4.03	
費用合計		41,306,746	983,494	96.52	2
期首育成牛子牛評価額		4,139,831	98,567	9.67	3
合 計		45,446,577	1,082,061	106.20	4=2+3
期中経産牛繰入評価額		2,192,517	52,203	5.12	5
期末育成牛子牛評価額		5,642,392	134,343	13.18	6
育成牛子牛販売収入		2,310,412	55,010	5.40	7
副産物価格		0	0	0.00	8
差引生産原価		35,301,256	840,506	82.49	9=4-(5~8)

1 1. 経営の成果（酪農部門の損益）

（単位：円）

区 分		金 額	適 要
酪農収益	牛 乳 収 入	41,234,631	自家消費分含む
	育成牛販売収入	240,000	（ 2頭 ）
	子牛販売収入	2,070,412	7（ 25頭 ）
	厩肥販売収入	0	交換分含む
	そ の 他	0	8
	計	43,545,043	10
生産費用	期首育成・子牛評価額	4,139,831	3
	当 期 費 用	41,306,746	2
	期中経産牛繰入評価額	2,192,517	5
	期末育成,子牛評価額	5,642,392	6
	差引生産費用	37,611,668	11=3+2-5-6
売 上 総 利 益		5,933,375	12=10-11
一販売 管理費 及び	販 売 経 費	2,091,251	
	共 済 掛 金	1,510,000	
	租 税 公 課	899,704	
	計	4,500,955	13
事 業 利 益		1,432,420	14=12-13
事業外 収益	受 入 共 済 金	854,285	
	配合飼料価格差補填金	0	
	償却対象牛処分益	0	
	そ の 他	1,466,971	受取利息転作奨励金組合還元金等
	計	2,321,256	15
事業外 費用	支 払 利 息	42,667	
	支 払 地 代	1,080,504	
	配合飼料価格差積立金	59,588	
	償却対象牛処分損	1,417,565	
	そ の 他	41,500	
	計	2,641,824	16
当 期 純 利 益		1,111,852	17=14+15-16
所 得		6,511,852	18=17+1
所 得 率		15.0	19=18/10
当 期 償 還 金		1,045,152	20
償 還 金 控 除 後 所 得		5,466,700	21=18-20